FFG Victory Road

FFGグループ内で活躍する実業団や
社会人チーム、部活動、個人スポーツ
活動を紹介するコーナーです

福岡中央銀行

「フェンシング選手」

木村芳徳

福岡中央銀行 野間支店に勤務する銀行員の木村芳徳さん。実はフェンシングの選手でもある。今年、国民スポーツ大会出場10回目を迎える木村さんに話を伺った。

YOSHINORI KIMURA

1990年7月17日生まれ、33歳。福岡県北九州市出身。小学5年生からフェンシングを始める。フェンシング強豪校の福岡県立福岡魁誠高等学校・中央大学を卒業。2013年、福岡中央銀行入行。筑紫通、新室見で融資担当。志免、飯塚を経て、現在、野間支店で総合営業を担当。

一瞬の隙を突く――

フェンシングに打ち込んだ青春時代

福岡中央銀行の銀行員でありながらフェンシング選手という肩書を持つ木村 芳徳さん。

北九州市で生まれ育った木村さんとフェンシングの出会いは小学5年生の時にさかのぼる。漫画『リボンの騎士』に憧れていた母親が、北九州市の総合体育館であったフェンシングの体験教室に申し込んだのがきっかけだ。半年限定の教室だったものの、北九州市内にフェンシングの全日本チャンピオンの先生がおり、そのままその教室に通うことになった。

「通っている人は大人が多く、趣味の延長のような教室でしたが、楽しく通っていました」

高校はフェンシングの強豪校である福岡県立福岡魁誠（ふくおかかいせい）高等学校に進学した。

「高校で初めて自分と同じ年代でフェンシングをやっている人たちと出会いました。整った練習環境でフェンシングに打ち込み、高校3年生の時、インターハイ個人3位の結果を残すことができました」

高校卒業後は、フェンシングの環境とサポート体制が整っている中央大学に進学。在学中に全日本個人ベスト8という好成績を残すことができた。

「大学卒業後は福岡で働きたいと思っていましたが、試合を優先していたため、就職活動をする時間もとれませんでした。そんな中、福岡中央

木村さんが練習している福岡県立福岡魁誠高等学校フェンシング部の皆さんと一緒に

スピード感あふれる激しい攻防が魅力のフェンシング▲
本番さながらの実践練習を何本もこなす▶

30歳を過ぎても活躍 実は選手寿命が長い競技

フェンシングは中世ヨーロッパの騎士たちの剣技に由来するスポーツ。フェンシングの種目には、背中を含む胴体を突く「フルーレ」、頭と腕を含めた上半身を突いたり斬ったりする「サーブル」、全身を突く「エペ」の3種目があり、木村さんは「エペ」の選手。ちなみに、日本では「フルーレ」が主流だが、海外では「エペ」の競技人口が多い。だからこそ、東京五輪で男子エペ団体が金メダルを獲得したことは歴史的快挙だった。

木村さんが考えるフェンシングの魅力は「他のスポーツに比べて選手寿命が長いこと」だと言う。若い選手の方が敏捷性や瞬発力、持久力があり優位に思えるが…。

「技術力と経験値でカバーできるので、40代になっても活躍している方が大勢います。私が大学生の頃もトップ選手は30代の社会人でした」

フェンシングは「筋肉を使ったチェス」とも称され、頭脳戦、心理戦の要素が大きいのだと言う。

「競技人口がそれほど多くないので、五輪選手と対戦したり、練習場が同じだったりするのも魅力ですね」

佐賀で開催される国スポで 愛娘に雄姿を見せたい！

「今年の国スポは10月に佐賀で開催されます。3歳半の娘にはまだフェンシングをしている姿を見せたことがないので、ぜひ見て欲しいと思っています。それから、今度の国スポが10回目の出場になります。10回出場すると表彰されるので今から楽しみにしています」

今年はパリ五輪の年でもある。木村さんは、フェンシングの日本選手の活躍に期待していると言う。

「テレビ放送などでフェンシングを目にする機会も増えると思いますので、少しでも多くの方がフェンシングに興味を持っていただけると嬉しいです」

銀行は関東でも採用活動があり、内定を得ることができました」

福岡中央銀行入行後も、母校の福岡魁誠高校で練習を続けている。

「入行してからは仕事が優先になり、練習は土日を中心に月2回程度です。国民スポーツ大会（国スポ、旧称：国民体育大会）の時期などは特別休暇を取得して出場しています」

福岡中央銀行 野間支店
住所：福岡市南区野間1丁目11-31

福岡中央銀行 野間支店の皆さん。前列左2人目から浪口支店長、木村さん